



更女 いばらき

発行
茨木市駅前3丁目8-13
茨木地区更生保護女性会
編集
茨木地区更生保護女性会

茨木地区更生保護女性会 結成50周年記念事業

当会は昭和48年に「茨木市更生保護婦人会」として発足し平成16年「茨木地区更生保護女性会」に改称。本年結成50周年を迎えました。

記念品寄贈



浪速少年院と市内にある3つの養護施設に児童書とDVDなどを届けました。

式典・記念講演



◆令和5年10月21日(土)
◆クリエイトセンター 多目的ホール

福岡茨木市長はじめ多くの関係団体の皆様から祝辞を頂き、岸田ひろ実氏によるオンライン講演会を開催しました。

記念誌発行



結成30周年以降の20年間のあゆみと50周年記念事業を掲載しました。

令和6年は元旦から「能登半島地震」が起こり、心いたむ年明けとなりました。当会は管外一日研修で石川県の更女会と交流会をもったご縁もあり大阪更生保護女性連盟と共に一日も早い復興を願い、義援金の協力をしました。今後とも支援を続けたいと考えています。

さて、昨年当会は結成50周年を迎え記念事業を企画しました。会員の皆様、関係機関・団体の皆様には平素のご支援に加え、多大なご協力をいただきました。お陰様で滞りなく全事業を実施することができました。心より感謝と御礼を申し上げます。

また、今年度は第一ブロック研修会の当番地区に当たっております。もう一度皆の力を結集して日頃の活動を発表したいと思っています。

茨木市では令和5年11月に「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」が開館しました。「なでしこほっとサロン」はおにクルでの開催に伴い、会員以外の方にもご参加いただいて楽しい一時を過ごす場になってきています。更女会主催の活動として継続していきたいと思っています。

本年も当会は更生保護活動を主軸として会員同士が楽しみながら自己研鑽に励み、女性の立場で社会に貢献していきたいと思っています。そして、新会員募集にも繋げていきたいと思っています。

今後とも、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



ごあいさつ

茨木地区更生保護女性会
会長 西島 幸江

本年も島原手延素麺を販売します！

あとがき

令和6年は、元日の能登半島地震、2日の羽田空港衝突事故と大きな事象からはじまりました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。コロナ禍も沈静化し、新しい施設「おにクル」での行事等、予定していた活動を実施することができました。又、「茨木地区更生保護女性会結成50周年」にあたり、平成15年以降の20年間のあゆみを編集し記念誌を発行しました。そして第36号「更女いばらき」の発行と続きましたが、ご協力、ご指導いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

大阪更生保護女性のつどいは、令和5年11月8日(水)ドーンセンターで開催されました。詳細については「なでしこ」90号をご覧ください。

追悼

畑 まゆみ様「6班」
更女会のために長年多大なご尽力をいただきました。ありがとうございました。謹んでお悔み申し上げます。

受彰
おめでとうございませう

大阪保護観察所長感謝状

仲 咲子

大阪更生保護女性連盟会長表彰

須藤 治子

藍綬褒章

岸田 尚美

新入会員紹介

福元 嘉代子「5班」
五味 玲子「6班」

会員募集

茨木地区更生保護女性会は、更生保護と子育て支援のボランティア活動をしています。入会のお申し込みは左記事務局までお願いします。

茨木市福祉部地域福祉課
更女会担当 宛
TEL 620-11634
FAX 621-1660

★更女会はボランティア保険に加入しています。

なでしこほっとサロン
日時：令和6年1月20日(土)
午前10時～正午
(午前11時30分受付終了)
場所：茨木市更生保護サポートセンター
(茨木市駅前4丁目7番55号茨木市福祉文化会館1階)
主催：茨木地区更生保護女性会
問合せ(事務局)：072-620-1634

ほっとサロンでは、個々の抱える事柄や社会的な問題について語り合ったり、様々な活動をされている方の体験を聞くこともあります。12月からはおにクル7Fの交流スペースで2ヶ月に1度子ども向けの手作りコーナーを設置し、来場者と一緒に楽しんでいます。12月は空瓶を利用したスノードームと折紙の干支飾り、2月は折紙の雛飾りを手作りしました。大人の方には防犯のパンフレットもお渡ししました。ほっとサロンに参加して更女会に入会された方も2人おられます。これからも楽しみながら外部の方に向けて更女会をアピールできるように取り組んでいきたいです。



子どもわいわいネットワーク茨木

本部 わいわいフェスタ 親子でリフレッシュ
令和6年1月25日(木) きらめきホール

よってこに よっていで〜!!
令和5年7月26日(水) 子民家 よってこ

どんぐり山フェスタ
令和5年10月28日(土) 救世軍希望館

わいわいひろば
令和5年11月30日(木) 大池コミュニティセンター

浪速少年院 創立100周年

記念式典が2023年6月21日(水)、浪速少年院体育館にて挙行されました。



麗日旗 (院旗)

春光に照らされて若人の心の華が初めて開かれるという意味を持っており、ひまわりが常に太陽を慕うように、我等もまた久遠の光を仰ぎ、希望に生き、向上に励もうという意味を表現したものです。

「誕生会」

9月19日(火)、残暑厳しい午後、私達は準備したケーキなどを携え少年院を訪れ、案内された部屋で院生を待ちました。拍手で迎える中、白シャツにグレーのズボン、坊主頭の11名の少年達が笑顔で入場してきました。先程までの緊張も一気に解け、ホッとして誕生会は明るい声での自己紹介から始まりました。

趣味について、スポーツ・身体を鍛えることやレゲエ&ラップなど色々な話題で話はずみでした。ショートケーキと白ぶどうジュースを前にして「こんなケーキを食べる機会がなかった。」とあちらこちらで声が聞こえ、彼らの生育環境を思い胸が痛みました。前に座った少年は「もう二度と犯罪はしない。」と私に誓うように話してくれました。私も「貴方なら好きなこともあるし、きっと大丈夫!!」と心から励まし、その後はプライベートな話ができま



あつという間に時は過ぎ、参加者それぞれが心に残る感慨を抱きながら少年達に拍手で見送られて退出しました。彼らの一日も早い社会復帰と二度と道を外れない事を祈りつつ帰路につきました。

「運動会」

10月6日(金)、澄み渡る秋晴れの日、コロナ禍以来4年目の開催でした。来賓及び保護者の出席者制限の中、第一、二、三学寮、新入院生寮、出院準備寮の院生達の規律正しく整然とした入場行進が行なわれ、来賓の方々、院長の挨拶の後競技が始まりました。トラック競技、マスゲームと次々プログラムが進むにつれ日頃の規則正しい生活とは異なり、院生達の思う存分全体を動かせる喜びや楽しさが伝わってきました。勝ったチーム、負けたチーム、どちらも応援し讃えあう互い思いやる様子に感動し、これまでに日々少年達を導いてこられた教官方や頑張っている院生達に目いっぱい拍手を送りました。結果は出院準備寮生が力量を発揮し優勝しました。院生達との交流は無く午前中のみで早々の解散となりました。最後の保護司会会長の挨拶で、勇気、希望といくらかのお金を持ち社会復帰に臨んでほしいとの言葉に感銘を受けました。出院後の社会生活では華やかさばかり求めるのではなく毎日健康で幸せにありたいまに過ごせるよう努力し頑張っしてほしいと切に願う少年院を後にしました。

「大人への集い」

令和6年1月15日(月)は割と暖かく、コロナ禍では

今回の大会では、更生保護女性会Ⅱ

『堅苦しく高質な団体』という私の手の勝手なイメージが大きく覆され、『代償を求めず暖かい人間愛をもつての活動』に変わりつつあるのだと気づかされた一日でもありました。



令和5年度 大阪更生保護女性連盟 第1ブロック研修会

管外一日研修

●とき 令和5年11月10日(金)
●ところ 舞鶴引揚記念館

保護司会・更女会、32人が参加しました。雨の中の出発となりましたが、見学时は傘が不用になりスムーズに移動できました。

第二次世界大戦の終結当時外国に残された日本人は660万人以上でした。舞鶴港は政府が指定したその人達の引揚港の一つとして長くその使命を果たしました。舞鶴引揚記念館では、引揚に関する資料の展示や、シベリア抑留の生活を再現した部屋もあり、その厳



舞鶴引揚記念館

しさを感じる事ができました。屋食後、海軍ゆかりの港めぐり遊覧船で波静かな舞鶴港をめぐり、赤レンガパークを見学しました。たくさん赤レンガ倉庫が残っていて、現在は修復しながらいろいろな目的に使われています。舞鶴には海上自衛隊の基地があり艦艇が停泊していたり、自衛隊員の姿も散見され、改めて平和の大切さを感じた一日でした。

更生保護女性会 新会員研修に参加して

●とき 令和6年1月30日(火)
●ところ 大阪合同庁舎4号館

更生保護の担い手についての話と東淀川区の活動報告がありました。更生保護の担い手として保護司、更生保護施設等、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の説明があり、更生保護の担い手は、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支援するものであることを再認識しました。犯罪や非行をした人たちのSNS等での否定的な意見や更生保護施設等の建設に対して住民が反対するなど、社会の受け入れは厳しいものであることも知りました。犯罪や非行をした人たちが社会の中で受け入れられて生きていくためには、彼らとつながる人やつながる場所を増やすことが必要で、そのためには更生保護の担い手が今以上に社会に浸透していかねばならないことを痛感しました。今後、自分は何ができるのかを探っていきたいと思います。

東淀川区の活動報告では、コロナ禍でもコツコツと活動されたことや保護司会

との「合同社明街宣活動」で、録音した声を流すのではなく自分の声をだすことに意味があり直打ちのある活動であることをお聞きして、自ら考え行動に移す大切さを学びました。今回の新会員研修で学んだことを、これからの活動に活かしていきたいと思っています。

茨木地区更生保護女性会 研修会

●とき 令和6年2月22日(木)
●ところ おにクル7F会議室2

最近若者を中心に増加している「OD」(オーバードーズ:咳止めや鎮痛剤等を大量摂取する事で麻薬を使用する感覚を得ることができる)を題材にした家族の物語をDVD映画「灰色の青空」に薬物乱用の背景を見つめてくを鑑賞しました。友人やSNSから情報を得て、ドラッグストアで簡単に手に入る市販薬のため罪悪感もなく始めて、結局依存症となり抜け出せなくなり、家族が気づくという物語でした。

鑑賞の後の話し合いで、保護観察の実体験を話していたいただきました。麻薬から逃れるために「OD」に依存して命を失った人。両親の24時間監視と携帯を辞めて、外部との連絡を絶つ事で、抜け出した人などの話を聞かせてもらう事ができました。



第73回 「社会を明るくする運動」



本年度の市民大会は7月15日、クリエイティブセンターホールにて開催されました。

式典の後、大正12年、当市に創立された我が国初の少年院「浪速少年院」の創立100周年を記念して院長の倉繁英樹氏より「矯正院から少年院へ100年の歩み」と題してその時々の社会情勢や法改正に伴う歴史や院内処遇、地域関係団体との交流の変遷をご講演いただきました。

「大正11年の少年法、矯正院法の改正に伴い、感化院、矯正院から少年院刑務所として大正12年、多摩、浪速の2少年院が設立されました。少年に限って刑罰ではなく社会復帰目的に、教育、訓練する場としての役割が明確になったのです。職員にも職業訓練指導員の資格が求められる、教官と呼ばれるています。電気工事、溶接、クリーニング、木工、アグリコース等の資格取得の指導が始まりました。

不幸な生育歴からの負のトラウマ(過剰防衛反応、現実逃避、法軽視、反社会的価値観)を乗り越え、やり甲斐や希望を持てるような処遇のあり方を工夫し、院生の社会復帰につながる役割を果たしていきたい。報恩、感謝の気持ちが少ない少年達が変わりたい」と思うように今後も努力を続けたい。昨今、入院者は減少傾向であるがこれは少年達が非行から引き籠りやニートに陥り、将来への希望が持てないようになっているからと憂慮している。こんな中地域の援助団体の協力は大変ありがたい。魅力発見講座・高齢者施設実習・犬とのふれあい・パソコン講座開設・矯正展開催等々、社会の役に立てる実感を持てる機会を得させていたでいて感謝している。

今後とも院生を社会につなぐ役割を果たしていきたい。」と熱く語られました。

イオンモール茨木 矯正展

●令和6年1月27日(土)・28日(日)
●10:00~19:00

